

Coca-Cola zero. 2014
Suzuka 8 hours

TOHO with MORIWAKI
Racing MORIWAKI RACING

2014FIM 世界選手権シリーズ第2戦

“コカ・コーラゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース第37回大会

三重県・鈴鹿サーキット

2014年7月26日(土) トップ10トライアル

トップ10 トライアルでポジションを上げ9番手

鈴鹿8耐のレースウィークも3日目となり、計時予選で10番手以内に入ったチームが、一台ずつタイムアタックを行うトップ10トライアルが行われ、上位10チームのグリッドが決定した。

これに先だって行われた45分間のフリー走行では、決勝を見据えたセットアップを行ったが、あまりいい方向に行かなかったため、この日は、KYB スタッフ、そしてメカニックと遅くまでミーティングを行った。課題となっている部分を解決するために、また違う方向にセッティングを行うことを決め、決勝日朝のウォーミングアップ走行で確認することにした。

トップ10トライアルは、國川浩道が最初にタイムアタックを行うが、力みすぎてしまい2コーナーでミスしてしまう。エースの山口辰也が2分09秒383をマークし9番手。計時予選より一つポジションを上げる結果となった。

2台体制で鈴鹿4耐に臨んだTOHO Racing clubは、喜井勝弥/野近幸紀組が19位でゴール。福岡勇二/大田孝志組は、序盤にスプーンカーブで転倒があったものの、すぐに再スタートし、49位で完走を果たした。



第1ライダー 山口辰也

「トップ10 トライアルは、2分08秒台には入れたかったのですが、納得いくタイムではないですね。マシンセットもなかなかいい方向に行っていないのですが、KYBさん、チームスタッフも頑張ってくれているので、決勝はいい状態で戦えるはずです。チーム一丸となって上位を目指します。応援よろしくお願ひいたします」

第2ライダー 國川浩道

「トップ10 トライアルの最初のライダーとしてコースインしたのは、すごく緊張しましたが、いい経験になりました。ただ、2コーナーでハイサイドになってしまい、いいタイムを出せなかったのは悔しいですね。決勝は、コンスタントに安定したペースで走りたいと思っています」

第3ライダー 小林龍太

「今日はボクの出番はありませんでしたが、トークショーやサイン会などに出演させていただき、多くの方と会うことができたのは、うれしかったですね。レースは、自分の役割をしっかりとこなしてバトンを渡して行きたいですね」



株式会社 TOHO

TOHO Racing with MORIWAKI

担当：野口